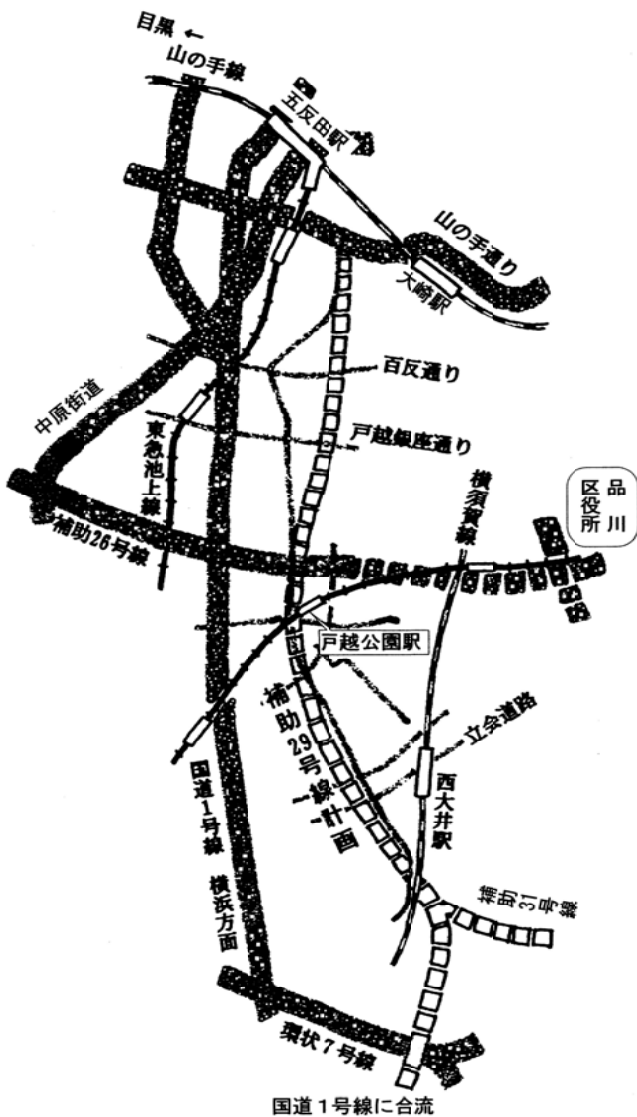


住宅街に29号線(幅20m道路)は必要でしょうか？

地震対策なら住宅耐震化を



左の図は「都市計画道路補助29号線」のイメージ図です。
 山の手通り大崎警察脇から大田区南馬込6丁目で国道1号線に合流する延長5,400m、幅20mの道路計画です。昭和21年に戦災復興都市計画街路として決定されたものです。

品川区がいま、「都市計画道路補助 全会一致で採択、都知事に対して29号線」を強引にすすめるようとしてい 線の計画そのものを撤回するよう求めます。この道路計画は住民の反対運動 てきました。29号線が街づくりの中心で3度にわたって品川区議会が請願を にすえたら住宅街は一変します。

品川区は昨年、豊町4・5・葉3・4丁目・西大井6丁目6丁目のまちづくり計画に都市計画道路補助29号線を盛り込みました。「東京都に事業化(工事着工)を働きかける」というものです。一昨年は二

区の説明は、都市交通網の整備と火災時の「延焼遮断帯」

29号線は幅20m 4車線の道路。大崎、戸越、豊町、二葉、西大井と住宅地、商店街を分断、大量の車を呼び込んで大気を汚染、公害を撒き散らすことになりま。なぜ、こんな道路をつくらうとするのでしょうか。

大量の車を呼び込むことに29号線は避難路として疑問です

震度7クラスの首都直下地震はいつきてもおかしくないと言われており、地震対策は焦眉の課題です。しかし、「延焼遮断帯」をその中心にするのは疑問です。

品川区は、29号線の目的を①都市交通網の整備、②延焼遮断帯とのべています。第一の「都市交通網の整備」とは、国道1号線のバイパスということ。今、山の手

第一に、住宅の耐震化を優先すべきだということです。阪神大震災の経験でも、住宅、ビルの倒壊が消火活動を妨げ、大規模な火災になった

住民多数は29号線に反対です

29号線計画に反対する運動はおよそ30年前に豊町地域で始まり、商店会や大崎の地域などもにも広がりました。区議会には29号線計画反対の請願が3度提出され、全会一致で採択されてきました。

品川区はこれまで「議会意思を尊重する」と答弁してきました。29号線計画はキツパリやめて、住宅の耐震化に防災の重点を切り替えることが必要ではないでしょうか。

お困りのときはお気軽に
無料法律相談は
 毎月おこなっています。
 区政相談はいつでもどうぞ
みやざき克俊事務所